

元気なまじかど

地域で大切に守り育てる

大原小学校記念植樹

大原小学校の6年生41名が3月14日、大原ダム上流のすわせ谷で、卒業記念としてヒノキの苗木を植樹しました。

この植樹は、「遠い将来を見据えてふるさとの山を守り、ふるさとを潤す」という先人の知恵から、119年間続く同校の伝統行事で、植樹後は、地域の方によって手入れが行われます。

大原財産区管理委員会会長の西田貞夫さんは、「植えた苗木は、今度はお父さんが大切に育ててくれる。しっかりと植えて」と呼びかけ、子どもたちは、心を込めて200本を植え終えました。

子どもたちは、「成人式にまた来たい」と成長を楽しみにしていました。



▲心を込めて植樹する大原小学校児童

選抜大会を前に横浜高が市内で練習

甲賀市民スタジアム

第86回高校野球選抜大会に出場する横浜高等学校の選手29名が3月18日、甲賀市民スタジアムで大会直前の練習を行いました。

同校は、選抜大会には2年ぶり15回目の出場で、強豪校のひとつです。

午後には、選抜大会で対戦して以来毎年練習試合を通して交流が続いている北大津高等学校との練習試合も行われ、熱のこもったプレーが繰り広げられました。

横浜高の小倉清一郎コーチは、「素晴らしい施設を提供してもらい、感謝している。まずはベスト4をめざす」と話していました。



▲熱のこもったプレーが繰り広げられた北大津高との練習試合

五穀豊穣を願い守り伝えられる伝統行事

檜尾神社・お田植え祭り

甲南町池田の檜尾神社で3月21日、五穀豊穣を願う「お田植え祭り」が行われました。

同社には、天狗が田植えの二連の作業を演じるという珍しい芸能が伝えられており、市の無形民俗文化財に指定されています。

天狗が農具を持ち、田植えの所作を終えると、天狗の先導で早乙女役の子ども3名が、苗に見立てた枝の束を手に取り、地面を掃くようにして苗取りと田植えの様子を再現しました。

境内には、大勢の地域の方が集まり、何百年も昔からこの地域に伝わる行事を見守っていました。



▲天狗の先導で田植えの様子を再現する早乙女役の子どもたち

千年の時代を越え蘇る

甲賀市あいの土山斎王群行

天皇の即位ごとに都から伊勢神宮に送られた斎王の行列を再現した「あいの土山斎王群行」が3月23日、土山町で行われました。

群行は、7世紀後半から660年間にわたり続いたとされ、同町にある垂水斎王頓宮跡は、一行の仮宿泊所である頓宮跡の一つで、現存する唯一の国史跡です。

この催しは、広く地域の歴史を知ってもらおうと実行委員会が毎年開催し、今年で17回を数えます。

当口は、十二単をまとった斎王役の石田光さんをはじめ約75名の三行が大野小学校から垂水斎王頓宮跡まで約3キロを練り歩き、見物客の皆さんは、華麗な群行に遥か昔へ思いを馳せていました。



▲垂水斎王頓宮跡に到着し「お着き式」に臨む一行

満開の梅を囲み交流

寺庄ふるさと公園いごいの集い

甲南町寺庄の創造の森・ふるさと公園で3月23日、「いごいの集い」が行われ、地域の方約150名が交流を深めました。

この集いは、ふるさと公園を知り、多くの方に利用してもらおうと、区と創造の森を良くする会が初めて実施したものです。

公園では、紅白20本のしだれ梅が咲き揃う中、写生やお茶会、グラウンドゴルフが行われ、春の一日を満喫しました。

参加者は、「こんなにきれいな時期に初めて来た」と画用紙をピンク色で染める子どもたちに目を細めていました。

公園には、他にも季節ごとに楽しめる花木が植えられ、4月の中旬には、桜が見ごろを迎えます。



▲満開の梅の下つどいを楽しむ地域の皆さん

ものづくりのまち甲賀再発見ツアー

市内2企業を工場見学

市が主催する「ものづくりのまち甲賀再発見ツアー」が3月25日、株式会社やまみ、株式会社日立建機ティエラの2か所で実施され、小学生とその保護者16名が参加しました。

このツアーは、甲賀市が7年連続製造品出荷額等で、県下1位である「ものづくりのまち」としての面を知ってもらう、市に愛着と誇りを持ってもらうことを目的に実施したものです。

ツアーでは、豆腐や厚揚げが作られている現場や、シヨベルカーが「ひとつの部品から作り上げられていく製造ラインを各企業の担当者から説明してもらいながら見学しました。

普段なかなか見ることのできない工場の中を案内してもらい「おもしろかった。またきたい」と目を輝かせる子どもたちの様子に、担当者は「工場の仕事に興味を持ってもらえれば」と話していました。



▲たくさんのシヨベルカーに興味津々の一行